

2014年3月期  
決算説明会

2014年4月23日  
株式会社トーメンデバイス



本資料に掲載されている株式会社トーメンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。

I

2013年度 決算概況

II

2014年度 見通し

III

2014年度 商品別の重点取り組み

# 連結業績サマリー



未回収債権発生による貸倒引当金の計上及び  
希望退職実施による特別損失の計上 ⇒ 利益面にマイナス

(単位:百万円)

	2012年度	2013/10/25 業績予想	2013年度	増減額 (対2012年度)	増減率 (対2012年度)
売上高	137,539	153,000	<b>174,654</b>	37,114	27.0%
売上総利益	4,365	—	<b>4,842</b>	476	10.9%
営業利益	2,084	2,200	<b>2,364</b>	279	13.4%
経常利益	1,954	1,700	<b>1,867</b>	△86	△4.4%
当期純利益	1,191	980	<b>1,051</b>	△140	△11.8%
総資産	43,617	—	<b>51,228</b>	—	17.4%
純資産	22,690	—	<b>23,563</b>	—	3.8%
1株当たり純資産(円)	3,289.76	—	<b>3,457.33</b>	—	—
自己資本比率	51.3%	—	<b>45.9%</b>	—	—
年間配当金(円)	50.00	30.00	<b>40.00</b>		

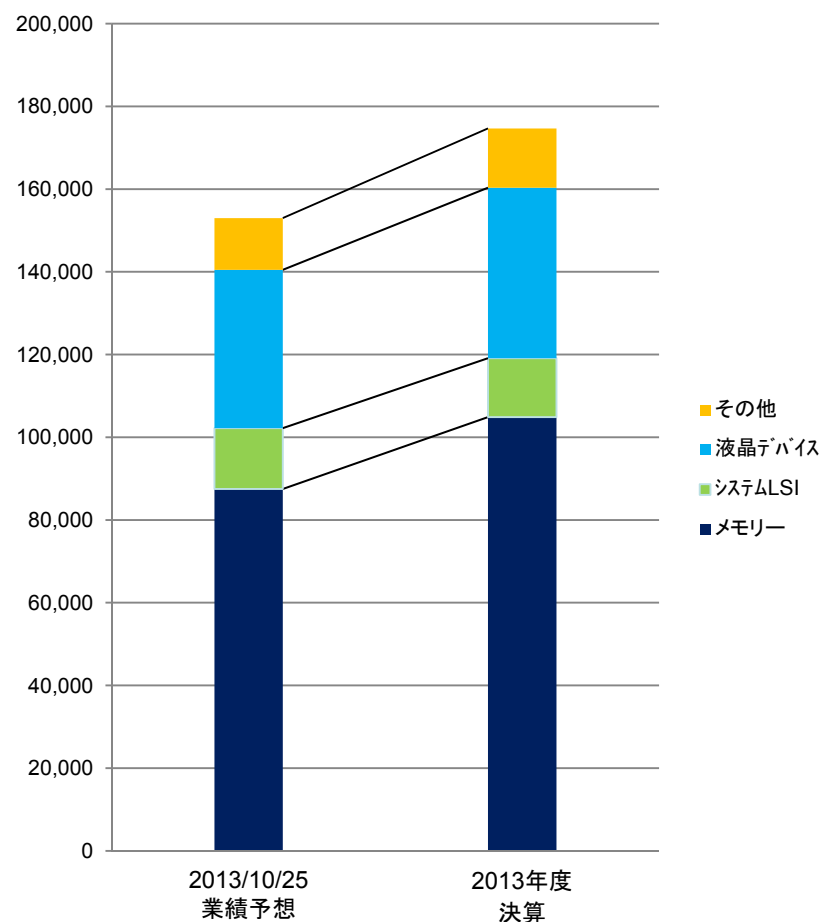
※ 2012年度は遡及修正後の数値です。

# 業績予想を修正(売上高)

PC買い替え需要と中国現地メーカー向けにテレビ用液晶パネルの売り上げが増加したことにより業績を上方修正

	2013/10/25 業績予想	2013年度 決算	増減率
メモリー	87,500	104,867	19.8%
システムLSI	14,700	14,246	△3.1%
半導体小計	102,200	119,113	16.5%
液晶デバイス	38,300	41,221	7.6%
その他	12,500	14,320	14.6%
合計	<b>153,000</b>	<b>174,654</b>	<b>14.2%</b>

※ 表、グラフ共に単位は百万円



## <Positive>

- Windows XPサポート終了による買い替えと消費税増税前の駆け込みによるPC需要増
- DRAM価格が強含みで推移
- 中国ビジネス拡大(特に、NAND FLASH、液晶パネルの現地企業向け売上増)

## <Negative>

- 日系スマートフォンの苦戦(事業撤退、縮小)

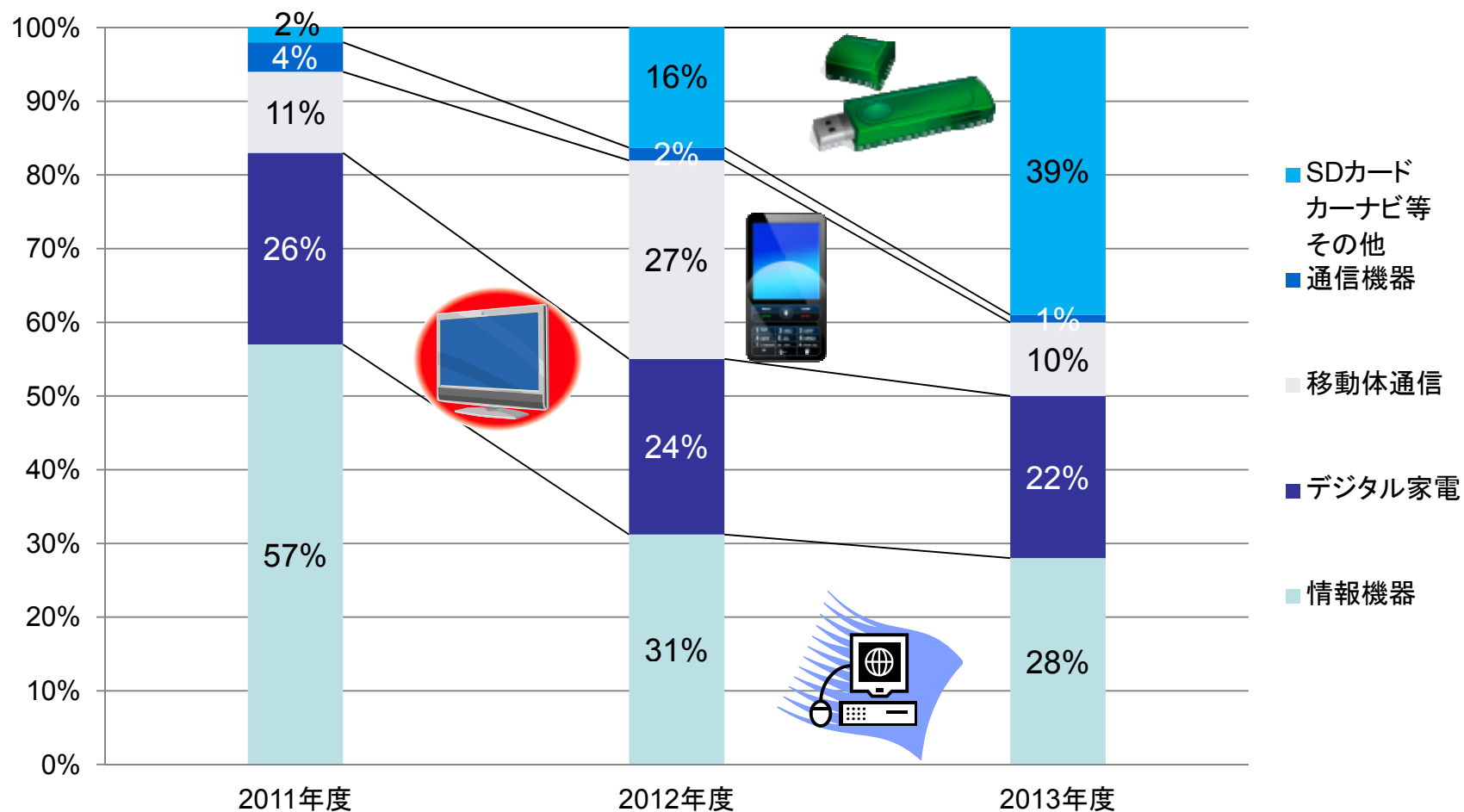
## 《当社》

- 希望退職の実施。筋肉質の経営体質へ



# 用途別売上高の構成推移

## 海外（現地メーカー向け）ビジネスが拡大



SDカード、USBメモリ、カーナビ等  
通信機器  
移動体通信  
デジタル家電  
情報機器

SDカード、工作機械、カーナビ、アミューズメント等  
移動体通信除く基地局等  
携帯電話、スマートフォン等  
BD、デジカメ、テレビ、電子辞書等  
PC、タブレット、サーバー等関連機器

# 本日の内容

I

2013年度 決算概況

II

2014年度 見通し

III

2014年度 商品別の重点取り組み



# 2014年度計画

国内ビジネスの縮小を海外ビジネスがカバー。売上高は前年度とほぼ横ばい。

	13年度実績	14年度計画	増減	前期比
売上高	174,654	175,000	345	0.2%
営業利益	2,364	1,800	△564	△23.9%
経常利益	1,867	1,700	△167	△9.0%
当期純利益	1,051	1,150	98	9.4%
1株当たり 当期純利益(円)	154.61	169.08	—	—
1株当たり 配当金(円)	40	40	0	—

## 【2014年度 利益計画の補足説明】

1. 国内のビジネスが縮小となる一方、中国ビジネスが拡大するため、価格競争は更に厳しくなる。
2. 取扱商材及び中国ビジネスの拡大によるプロダクトミックスの変化。
3. 2013年度は希望退職により特別損失発生。

サポート体制（物流、システム）、グローバル人材及びグループ全体でのリスク管理の強化

国内

海外

既存事業の  
基盤強化

成長性・競争力  
の見込まれる  
分野への拡販

スマートフォン、  
デジタル家電  
への販売強化

成長性のある優  
良な顧客の  
開拓

# 2014年度見通し

## <Positive>

- ワールドカップを機に、4Kテレビの普及に期待。国内テレビ市場の回復。
- 中国においてはスマートフォン需要はいまだなお堅調。ローエンドスマートフォンが普及。
- クラウドコンピューティングが拡大し、データセンター向けビジネスの伸長に期待。

## <Negative>

- 国内スマートフォンメーカーは厳しい状況が続く。

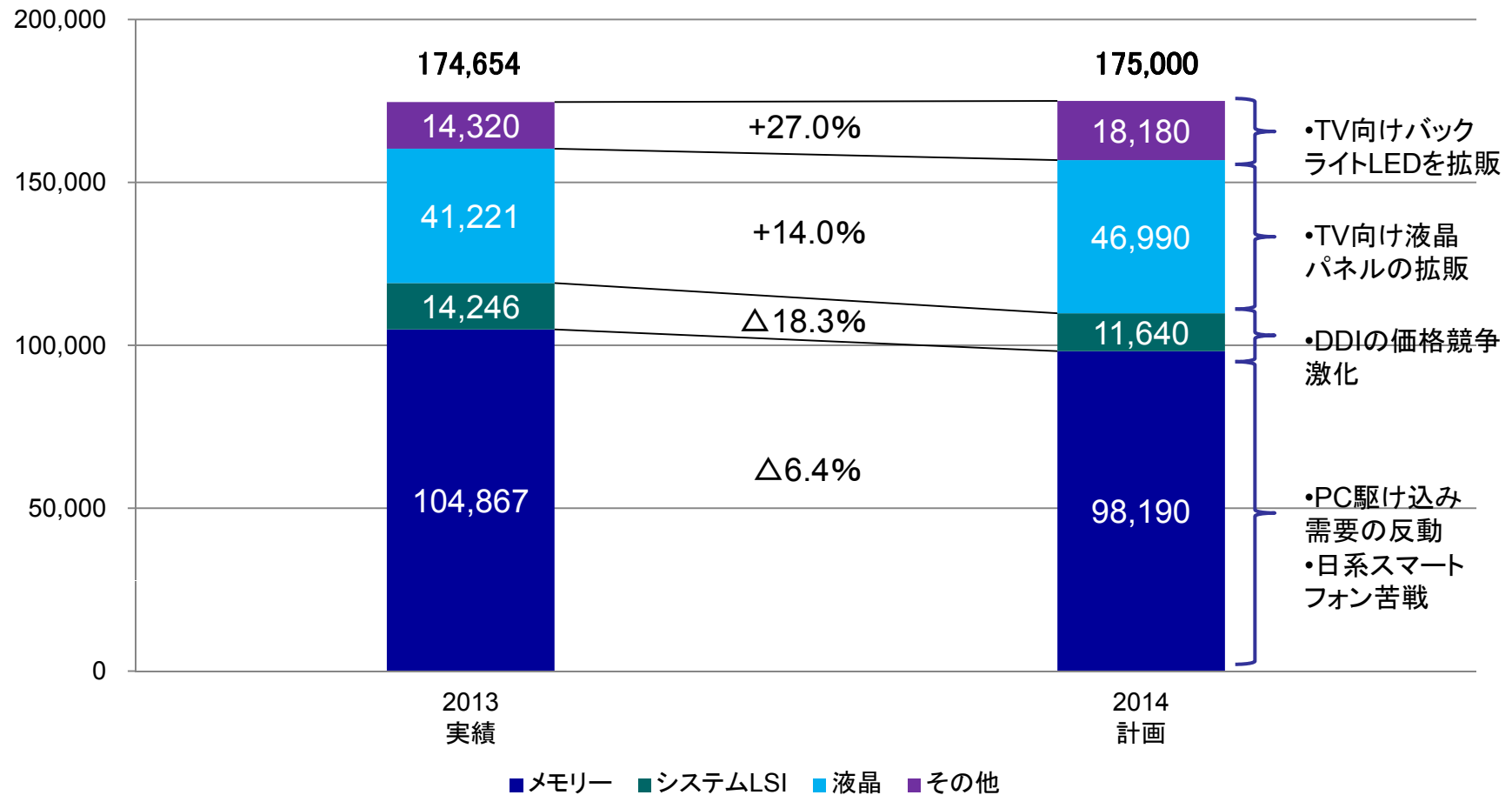
## 《当社》

- 国内市場(PC、スマートフォン等)が伸び悩む中、中国ビジネスを更に拡大



## 液晶パネルとLEDが伸長。

(単位:百万円)



# 本日の内容

I

2013年度 決算概況

II

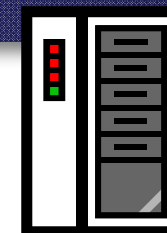
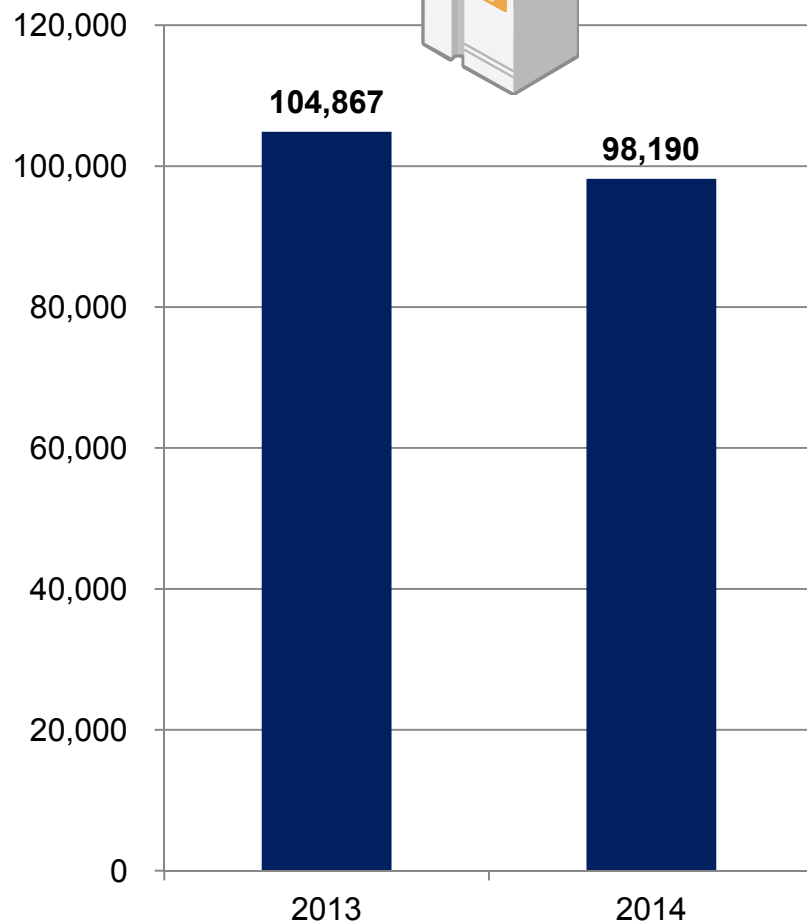
2014年度 見通し

III

2014年度 商品別の重点取り組み

# メモリー分野

(単位: 百万円)

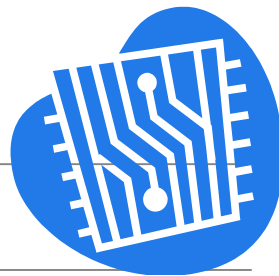
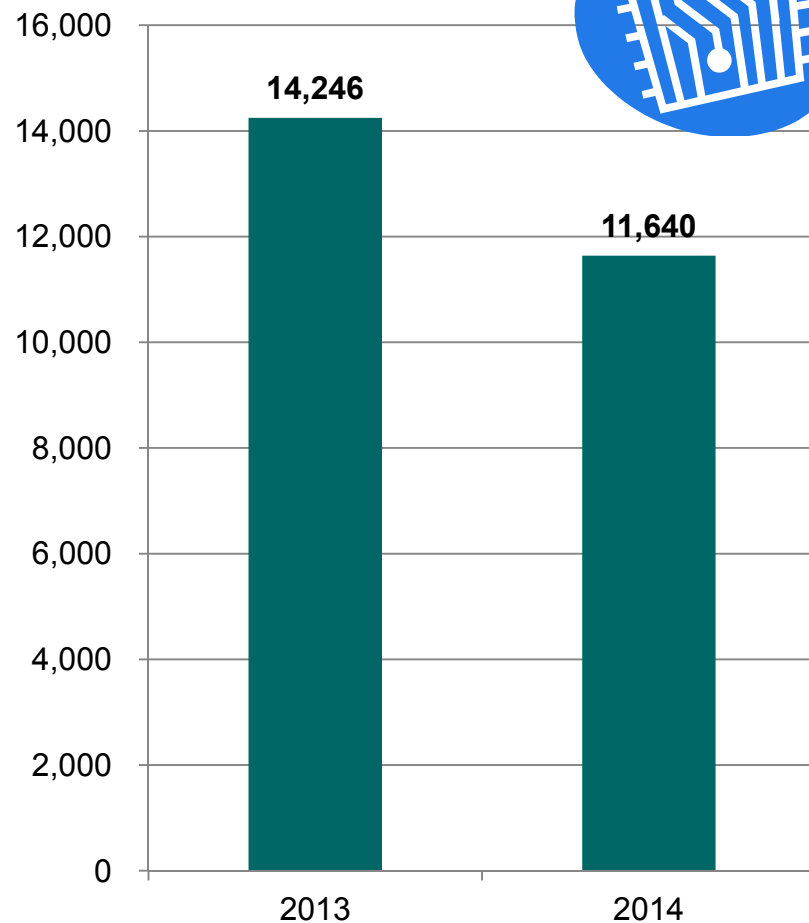


- 4Kテレビの立ち上がりに向けたDRAMの拡販
- SSD①: PC向けにデザイン・インの継続
- SSD②: サーバー・ストレージ市場及びデータセンターへのアプローチ・拡販を継続
- ローエンドスマートフォン向けにMCPの拡販

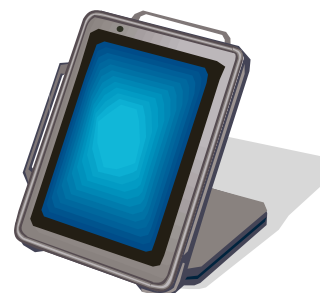




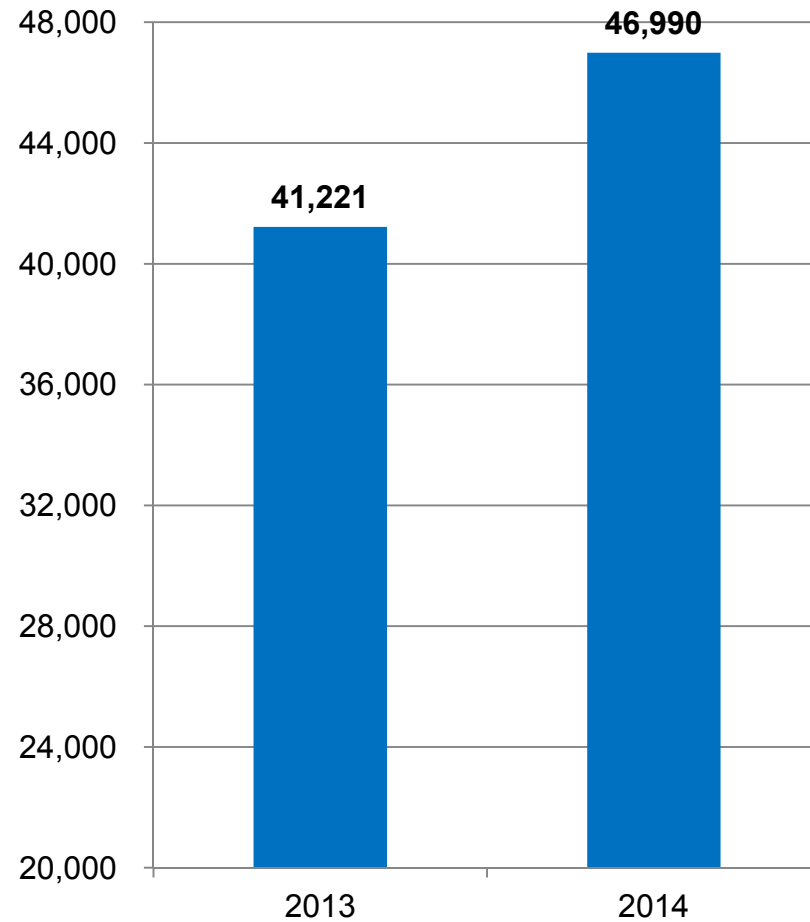
(単位: 百万円)



- DDI: タブレット、液晶テレビ向けビジネスの環境は厳しいが、シェアの維持、拡大を計る。
- CIS: ローエンドスマートフォン中心にデザイン・インを図る。
- Foundry/ASIC: 新規参入アプローチの継続



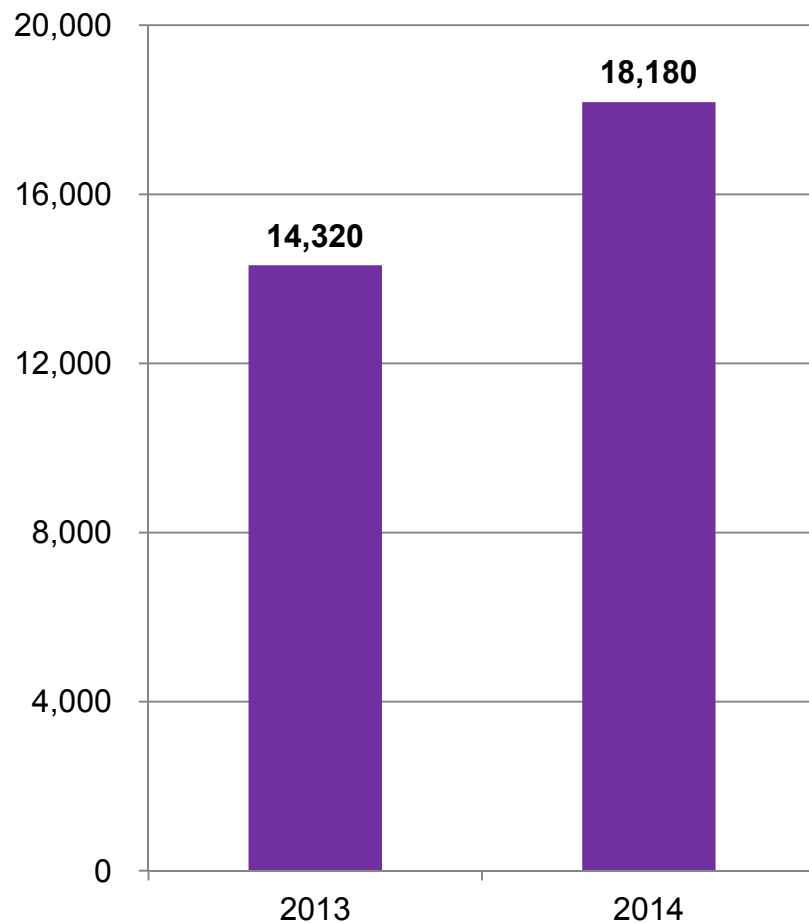
(単位:百万円)



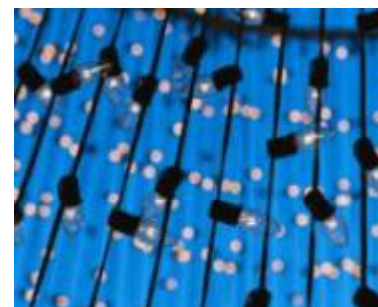
- 中国現地テレビメーカー向けに液晶パネルの拡販
- 既存のお客様についてはシェアの維持・拡大に注力
- モニター向け液晶パネルの販売競争力を強化



(単位: 百万円)



- 有機EL: 国内タブレットへのデザイン・イン
- LED: 4Kテレビの認知度の高まり等により、テレビ市場が回復する中、LEDバックライトの拡販を実施
- LED: 車載、照明市場への拡販継続

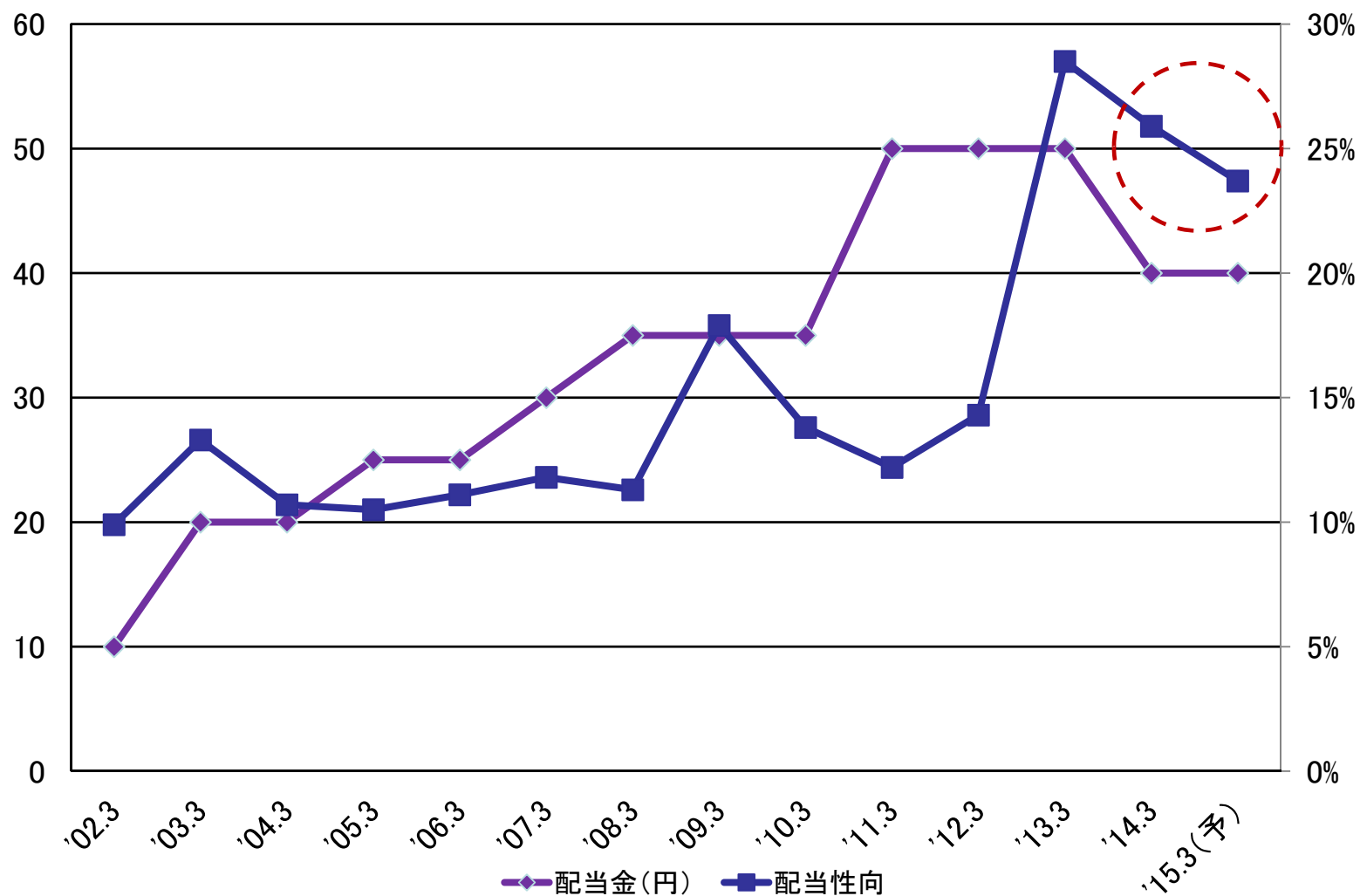




# 配当計画(1株当たり)

連結配当性向は20~30%を目処。

(単位:円)



ご清聴ありがとうございました

